

28

特集

「ナショナリズム」を考える

特別掲載

おかしらマニフェスト

連載

Co-net 「建築で社会を変える」——級建築士事務所ツイプ代表 宇賀亮介さん

When I was young 「強い意志を持って」—健康マネジメント研究科委員長 吉野肇—

SFCのこれからを考える 「きみ、そのままでいいじゃないか」—環境情報学部専任講師 菊地進一

特集

「ナショナリズム」を考える

- 04 貧しい日本のナショナリズム
06 総合政策学部助教授 小熊英二
- 08 【学生鼎談】ナショナリズム論の交錯
政策・メディア研究科修士課程1年 中丸博禎 × 環境情報学部4年 松本智之 × 総合政策学部3年 林 英一
- 12 現実主義的ナショナリズム 一次世代安全保障のかたち
12 総合政策学部専任講師 神保 謙
- 13 変容する欧州連合の「ナショナリズム」
13 総合政策学部教授 香川敏幸
- 14 理想主義のナショナリズム
14 総合政策学部教授 阿川尚之
- 15 【対談】東アジア共同体形成に向けた、ナショナリズムの問題と展望
15 総合政策学部教授 小島朋之 × 総合政策学部教授 梅垣理郎
- 19 ナショナリズムって何？ —思想史の視座から
19 総合政策学部教授 堀 茂樹
- 20 情報社会とナショナリズム
20 政策・メディア研究科助教授 土屋大洋

特別掲載

- 22 おかしらマニフェスト

連載

- 02 SFC front runner Vol.2
挑戦者へと開かれた門
—大学発ベンチャーインキュベーションの成功モデルを作る—
- 26 When I was young 第18回
強い意志を持って
健康マネジメント研究科委員長 吉野肇一
- 28 Co-net 第17回
建築で社会を変える
一級建築士事務所ツイップ代表 宇賀亮介さん
- 30 キャンパスへ帰ろう 第14回
六本木に集った！HCD2005
- 32 異国の風 第14回
留学することの魅力
環境情報学部3年 金度寧
- 34 私の推薦図書 第3回
『天風先生座談』
寄稿—環境情報学部教授 武藤佳恭
- 36 SFCのこれからを考える 第6回
きみ、そのままでいいじゃないか
環境情報学部専任講師 菊地進一
- 38 編集後記
- 39 付録 make your campus no.18
Z(ゼータ)館

平成18年3月、SFCのバスロータリーから看護医学部へと続く道の途中にインキュベーション施設「慶應藤沢イノベーションビレッジ」がオープンする。この事業は、独立行政法人中小企業基盤整備機構（以下「中小機構」）が、国の大連携型起業家育成施設整備事業の平成16年度予算内示を受けて、始動したものである。慶應義塾大学・中小機構・神奈川県・藤沢市の4者が、新事業創出を支援すべく、緊密な協力関係を構築し、協働して推進していく。

大学の使命は本来「教育」と「研究」だが、最近はそれに加え、「第三の使命」が謳われるよう

になった。この使命とは「社会貢献」、すなわち産官学

連携を始めとした大学と社会の連携と協力に取り組む

ことである。これまでの大学が持つさまざまな情報や

技術は、研究や論文発表にとどまっていた。しかし、

こうした情報や技術の活用は、中堅・中小企業の技術革新を可能にする。大企業に縛られることのないこう

した技術開発や新規事業への挑戦が、日本の国際競争力を高めることにもつなが



るのである。また最近では、国立大学の独立行政法人化や少子化に伴って、大学も財政的な危機感をひしひしと感じるようになってきている。そこで、研究者も、自分の研究成果を効率よくビジネス化する道を模索することとなる。その際、社会からのさまざまなサポートを受けられるようになります。そのためには、中小企業側からみた大学の敷居の高さを解消することが不可欠である。

以前より、SFCでも産官学連携は注目され、



KEIO FUJISAWA INNOVATION VILLAGE

活発な取り組みが行なわれてきた。大学と民間企業などが共通のテーマについて協力して研究を行なう「共同研究」や、民間企業からの委託を受けて実施する「受託研究」は、これまでにも増して盛んになっている。また、近年では大学の研究成果を知的財産として民間企業に活用させる「技術移転」から、大学の人材や技術などをもとに起業する、いわゆる「大学発ベンチャー」といったものまで、多様な产学連携のかたちが見られるようになつた。この施設ができることによって、産官学連携ができることによって、産官学連携に拍車がかかることが期待できる。



場所が、都心から離れた
SFCの敷地内なので、ビ

ジネスにとっての地理的利
便性は良いとは言えない。
しかし、質の高い最先端研
究を行ない、起業に意欲的
な学生を積極的に応援して
いるSFCとの密接な連携
により、成功確率の高いベ
ンチャー企業を育成していく
ことができるだろう。な
お、この施設には複数のイ
ンキュベーションマネージ
ャーが常駐し、入居者に対し
て起業に向けた助言、マーケティ
ング、ビジネスマッチングなど、総合
的支援を行なう予定である。

グローバルな躍進を目指すベンチャー、IPO
(株式公開)を目指すベンチャーはもちろんのこと、
地域社会に貢献していくベンチャーやNPOなど、
志と実力を持つ人に、その門は広く開かれている。

(寄稿 SFCインキュベーションマネージャー 原田憲二)



SFC front runner

Vol.2：挑戦者へと開かれた門 —大学発ベンチャーインキュベーションの成功モデルを作る—

2006年3月、SFCにインキュベーション施設が開設する。この試みは、ベンチャー企業における大学の役割の新たな展開として注目されている。SFCの研究成果を活用し、産官学の連携体制を強化する大きな契機になると期待が集まる「慶應藤沢イノベーションビルレッジ」の魅力に迫る。

「ナショナリズム」を考える

近年、「ナショナリズムの再燃」が、世界各地で取り沙汰されている。

日本でも、「ナショナリズム」は歴史教科書問題、靖国参拝、対アジア外交などを巡る議論に直結し、時の言葉となつてゐる。

しかし、そもそも「ナショナリズム」とは何か？ どこから生まれ、どこへ向かうのか？

多義的な性格を持つこの言葉は、それをどう定義するかもまた大きな問題である。

本特集では、「ナショナリズム」という言葉をあえて広く捉えて、さまざまな立場の論者の多様な視点を紹介する。

06 小熊英二 貧しい日本のナショナリズム

08 学生鼎談 ナショナリズム論の交錯

12 神保謙 現実主義的ナショナリズム——次世代安全保障のかたち

13 香川敏幸 變容する歐州連合の「ナショナリズム」

14 阿川尚之 理想主義のナショナリズム

15 小島朋之×梅垣理郎 対談

東アジア共同体形成に向けた、ナショナリズムの問題と展望

19 堀茂樹 ナショナリズムって何?——思想史の視座から

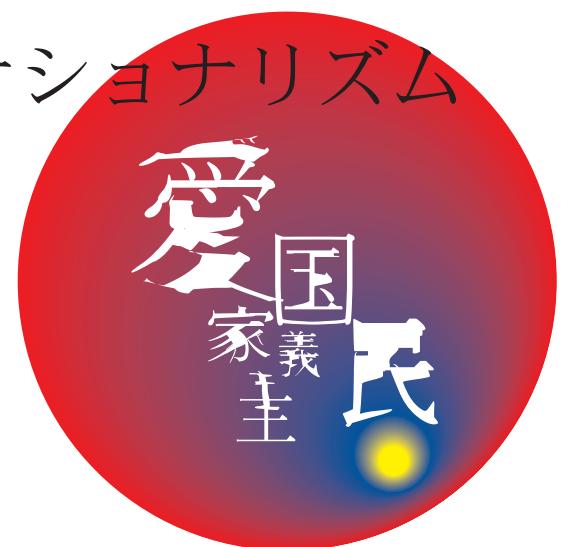
20 土屋大洋 情報社会とナショナリズム

ナ シ 王 ナ リ ズ ム

ここ数年「新しい歴史教科書をつくる会」の運動や首相の靖国参拝への広範な支持などを指して「右傾化」や「ナショナリズムの高揚」といった言葉がメディアを賑わせている。果たして、こうした現象の背後には何があるのか。定義の検討と外国との比較から、日本におけるナショナリズムを巡る議論の危うさと限界が浮き彫りになる。ナショナリズムの多義性と、その意外なまでの日常性。我々のナショナリズム認識を、現状の批判から明らかにする。

小英能ヒタビニ

貧しい日本のナショナリズム



【ナショナリズム大国、ニッポン?】

——日本のナショナリズムの起源と、特徴はなんでしょうか。

ナショナリズムは近代の産物である、というのは現在の社会科学ではほぼ定説です。「日本」という近代統一国家が形成されなければ、「自分は日本人である」というような意識は成り立たない。こうした意識が一般的に浸透したのは、日本にとっては明治以降だと言わることが多いです。しかし、近代化すれば自然にナショナリズムが形成されるわけではない。ナショナリズムが完全に形成されていない国は世界にはいくらあります。たとえばアメリカなどは儀式の度に、国旗を揚げて国歌を歌いますよね。だけどあれは、ナショナリズムが強いからそうしているというより、常に再確認していないと崩れてしまうくらい「自分たちはアメリカ人だ」という国民意識が弱いからだとも言える。日本人はそういう再確認をしなくて、「自分たちは日本人だ」という意識が身についていますよね。そういう意味での国民意識は、世界のなかでも珍しくらいに強い国だと思います。

——近年、日本の世論は右傾化している、ナショナリズムが高揚しているなどと言われますが、「こういった現象はどう捉えればよいのでしょうか。

それはナショナリズムをどう定義するかによります。たとえば、一般的には自分が靖国神社に参拝することを支持する方がナショナリストだと言われますね。ですが、靖国参拝については各種の世論調査を見ても意見が割れているわけです。そういう状態で参拝をするのは国家を分裂させる要因になるから、ナショナリズムに反する、という言い方もできる。

——日本の丸を掲げるのはナショナリズムか】

——国旗・国歌を巡る文科省の政策や、「新しい歴史教科書をつくる会」などを一定数の人々が支持するのはなぜなんですか。

そういう支持のかなりの部分は、最近の若者がだらしなく弛んでいるから、国旗の前で整列させて国歌を歌わせてしつかりさせよう、とかいつた程度の考え方でしょう。それから、最近は不景気で価値観も変わって、何を指針に生きていくべきだといふかわからないから、なにか振り所になるものがほしいという人が多い。だから、「日本人の誇り」を唱える言動が支持を集めることには、若干事情は違いますが、80年代にヨーロッパやアメリカで起きたことと似ているとも言えます。つまり70年代から80年代にヨーロッパやアメリカで景気が低迷し、社会が不安定になったとき、サンチャーリー政権やレーガン政権が新自由主義を掲げたり、移民排斥を唱える右派が台頭したりしました。新自由主義は最近の日本でも流行りですが、幸か不幸か日本の場合は「自由・平等・友愛」の国是を信じ、フランスの市民権を持っていれば、肌の色が黒だろうが黄色だろうが白だろうがフランス人だ、というのが公式のナショナリズムです。そういう定義で計れば、日本はナショナリズムがとても弱い国です。何が国はなのかはつきりしません、たんに見た目や慣習で「日本人」と「外人」を区別しているだけですから。

——日本の丸を揚げるのはナショナリズムか】

——国旗・国歌を巡る文科省の政策や、「新しい歴史教科書をつくる会」などを一定数の人々が支持するのはなぜなんですか。

そういう支持のかなりの部分は、最近の若者がだらしなく弛んでいるから、国旗の前で整列させて国歌を歌わせてしつかりさせよう、とかいつた程度の考え方でしょう。それから、最近は不景気で価値観も変わって、何を指針に生きていくべきだといふかわからないから、なにか振り所になるものがほしいという人が多い。だから、「日本人の誇り」を唱える言動が支持を集めることには、若干事情は違いますが、80年代にヨーロッパやアメリカで起きたことと似ているとも言えます。つまり70年代から80年代にヨーロッパやアメリカで景気が低迷し、社会が不安定になったとき、サンチャーリー政権やレーガン政権が新自由主義を掲げたり、移民排斥を唱える右派が台頭したりしました。新自由主義は最近の日本でも流行りですが、幸か不幸か日本の場合は「自由・平等・友愛」の国是を信じ、フランスの市民権を持っていれば、肌の色が黒だろうが黄色だろうが白だろうがフランス人だ、というのが公式のナショナリズムです。そういう定義で計れば、日本はナショナリズムがとても弱い国です。何が国はなのかはつきりしません、たんに見た目や慣習で「日本人」と「外人」を区別しているだけですから。

——日本の丸を掲げるのはナショナリズムか】

——国旗・国歌を巡る文科省の政策や、「新しい歴史教科書をつくる会」などを一定数の人々が支持するのはなぜなんですか。

そういう支持のかなりの部分は、最近の若者がだらしなく弛んでいるから、国旗の前で整列させて国歌を歌わせてしつかりさせよう、とかいつた程度の考え方でしょう。それから、最近は不景気で価値観も変わって、何を指針に生きていくべきだといふかわからないから、なにか振り所になるものがほしいという人が多い。だから、「日本人の誇り」を唱える言動が支持を集めることには、若干事情は違いますが、80年代にヨーロッパやアメリカで起きたことと似ているとも言えます。つまり70年代から80年代にヨーロッパやアメリカで景気が低迷し、社会が不安定になったとき、サンチャーリー政権やレーガン政権が新自由主義を掲げたり、移民排斥を唱える右派が台頭したりしました。新自由主義は最近の日本でも流行りですが、幸か不幸か日本の場合は「自由・平等・友愛」の国是を信じ、フランスの市民権を持っていれば、肌の色が黒だろうが黄色だろうが白だろうがフランス人だ、というのが公式のナショナリズムです。そういう定義で計れば、日本はナショナリズムがとても弱い国です。何が国はなのかはつきりしません、たんに見た目や慣習で「日本人」と「外人」を区別しているだけですから。

——日本の丸を掲げるのはナショナリズムか】

——国旗・国歌を巡る文科省の政策や、「新しい歴史教科書をつくる会」などを一定数の人々が支持するのはなぜなんですか。

そういう支持のかなりの部分は、最近の若者がだらしなく弛んでいるから、国旗の前で整列させて国歌を歌わせてしつかりさせよう、とかいつた程度の考え方でしょう。それから、最近は不景気で価値観も変わって、何を指針に生きていくべきだといふかわからないから、なにか振り所になるものがほしいという人が多い。だから、「日本人の誇り」を唱える言動が支持を集めることには、若干事情は違いますが、80年代にヨーロッパやアメリカで起きたことと似ているとも言えます。つまり70年代から80年代にヨーロッパやアメリカで景気が低迷し、社会が不安定になったとき、サンチャーリー政権やレーガン政権が新自由主義を掲げたり、移民排斥を唱える右派が台頭したりしました。新自由主義は最近の日本でも流行りですが、幸か不幸か日本の場合は「自由・平等・友愛」の国是を信じ、フランスの市民権を持っていれば、肌の色が黒だろうが黄色だろうが白だろうがフランス人だ、というのが公式のナショナリズムです。そういう定義で計れば、日本はナショナリズムがとても弱い国です。何が国はなのかはつきりしません、たんに見た目や慣習で「日本人」と「外人」を区別しているだけですから。

——日本のナショナリズム概念の貧しさ】

——さまざまなものにはある理念の中でも、そこには多様な言語や文化を持つ人々で構成されている、ということを前提に考えてしまうからとか、アジアから孤立してしまったといった信念から、それに反対している。となると、彼らの方が本気で国を憂いでいる、つまり本当のナショナリストだという考え方もあります。つまり、さきほどのフランスの話と重なるわけですが、ナショナリズムというのは定義としていろいろな見方ができるんですね。

——日本のナショナリズム概念の貧しさ】

——さまざまの



小熊英一（おぐま・えいじ）

総合政策学部助教授兼政策・メディア研究科委員。東京大学教育学部博士課程修了。専攻は歴史社会学・近代史・「近代思想」などの科目を担当している。著書に『單一民族神話の起源』『民主』と『愛國』などがある。



ナショナリズム論の交錯

ナショナリズムと関係がありそうな、なさそうな……そんな分野を研究している3人が、それぞれの研究テーマとナショナリズムの関係を語る。互いにナショナリズムをどう定義しているか、またどうイメージしているかを語りあった5時間にも及ぶ対話から、「ナショナリズム」に含まれている複雑性や危険性が明らかになる。

中丸博禎（なかまる・ひろしだ）

政策・メディア研究科修士課程1年。
青木節子研究室、堀茂樹研究室に所属。
国際法、特に武力行使（戦争）を巡る
国際法を中心に研究。国際社会において
いかに「正当性」を作ることができ
るかを探究している。

松本智之（まつもと・ともゆき）

環境情報学部4年。草野厚研究室、
渡辺靖研究室に所属。米国政治と日本
の国際協力政策を中心に研究。N
POやNGOを含めた、新しい国際協
力のかたちを模索している。

林 英一（はやし・えいいち）

総合政策学部3年。野村亨研究室、渡辺靖研究室に所属。
インドネシアの旧日本軍残留兵やその子孫たちの日系人
を中心に研究。2005年独立行政法人・日本学生支援機構
より「平成17年度第1回優秀学生顕彰事業」の「学問」
分野で奨励賞を受賞した。残留兵を巡ってさまざまな伝説
が生まれるなかで、その真実の姿を追い続け、「戦後の
原点」を捉え直そうとしている。

学 生 鼎 談

松本 私は日本の国際協力、主にODAやPKOについて勉強しています。国際協力は、支援される側にとっては他者の介入もあります。ですから、支援される側のナショナリズムにぶつかることが多々あるんです。たとえば、日本からの東南アジアへのODAは日本製品の輸出を中心として戦後賠償の代わりとして行なわれましたが、一時期はその日本製品に対する迫害運動もありました。そうしたナショナリズムによるバリアが、今後の国際協力でも問題になり続けるのではないかと考えています。

林 私のナショナリズムのイメージはむしろアンダーソンの『想像の共同体』というナショナリズムに近く、多分松本さんのイメージとはちょっと違います。私はインドネシアに戦後残つて独立戦争に参加した残留日本兵の生き残りにお話を聞いて、彼らの辿った道を調べています。自分の研究は二つの点でナショナリズムのテーマにつながると思います。まず、日本で彼らは戦後長いこと「國に捨てられた人＝棄民」というふうに表象されてきました。それが、マルキシズムの勢いがなくなり、ナショナリズムが高揚するようになって、今度は彼らを祖国やアジアのために戦つた英雄とみなす風潮が出てきました。でも、彼らはナショナリストでもなければアジア主義者でもなくて、インドネシア・ナショナリズムの影響にも抵抗した人たちなんです。むしろ、こうした影響のあいだで、一種の自律性を働かせた、どちらでもない存在だ



つたと思うんですよ。一方で、彼らの子供や孫の世代では、強烈な日本への遠隔地ナショナリズムが芽生えることもあります。「日系族」としてアイデンティティを確立しようとしている人もいます。こうしたなかで、どのようにしてナショナリズム的な伝説が生まれてくるのか、ということに関心をもつっています。

中丸 残留日本兵が独立戦争で戦った

という話を聞くと、私もつい良い話だな、と感じてしまって、やはり自分も「日本人」なのかなと思いますね。でも、実際は国内の都合で勝手に表象されてきてたんですね。そういうなかで、どちらでもないよという姿勢は大変貴重だと思います。

私は国際法学を勉強しています。特に興味を抱いているのは、正戦論です。これは、何が正しい戦争かということを法的、道徳的に規定しようとするものです。この試みの難しさの一つは、「戦争はすべて悪い」という絶対的平和主義と、「戦争の正しさは力によつて決まる」というラディカルな現実主義、双方からの批判のあいだにあることからきています。困難は承知のうえですが、現実に行なわれている戦争に「正戦」にあたるものがあるかはともかく、あくまで正しさを問うことには意義があると信じて研究しています。

また、法的に正しい戦争と道徳的に正しい戦争が必ずしも同一であるとは限らないので、そこに生じる「ズレ」も主な関心領域となっています。

国際法とナショナリズムとの関係について言えば、国家がナショナルな利益に基づいて行動するのは当然のこと

ナショナリズムとは何か

中丸 私はナショナリズムを、自國や自国民の優越性を一方的かつ排他的に主張することだと捉えています。自分達の価値の優れていることがダメとして決まっていて、そこには理性的な対話の可能性がない。ネイションが教条的に「イズム」化されることを認識しています。私にとってはたとえば、自國の利益のために理性的に交渉する外交官などの行動はナショナリズムではありません。一方で、自國の利益を求めてエモーショナルに暴発する民衆がいます。小村寿太郎がボーッマス条約を締結したときに、それが軟弱外交であるとして、講和に対する反発デモや、日比谷焼き討ち事件などが起ったわけです。私はああいうのをナショナリズムだと思うんです。

松本 確かに排他性のないナショナリズムなんて存在しないと思います。そういう意味では中丸さんは上手い定義づけだと思います。しかし、排他性をネーションから切り離すのは難しいですね。国を統一するというのは、枠を作つて内外を区別するわけですか

中丸：そうですね。そういう意味では、ナショナリズムはネイションにほとんど不可避的についてくるものと言えるかもしれません。ただ、仮に排他性のないネイションが存在したとしたら、それは単にネイションであって、そこにナショナリズムは存在しないと考えますね。ナショナリズムという言葉はあえてネガティブな意味に限定したい。

林：なるほど、そういう考え方もできますね。私のナショナリズムのイメージはどちらかというと教科書的な国民国家主義と言いますか、たとえば日本なら、北海道や沖縄に住んでる全く知らない人間も同じ日本人だという、一種の信仰のようなものです。国民国家主義としてのナショナリズムには、二つの面があると考えています。一つ目は排他性です。私がナショナリズムと聞いて最初にイメージするのはハンセン病の問題です。ハンセン病患者は戦後も日本ではずっと一種の他者として捉えられてきました。彼らは日本人でもなければ、人間ですらない存在として断種されたり、隔離されたりし続けてきました。こういうのはナショナリズムの排他性的の典型的なものだと思っていました。だからナショナリズムと聞くとすごく権力的なもの、暴力的なものをイメージしてしまいますね。

ただ一方ではポジティブな面もあると思っていて、これが二つ目の人をまとめる性質です。インドネシアの独立記念式典に行つた時に、みんな同じ国旗に敬礼して、同じ国歌を歌つていました。そうして一つのインドネシアといういう国としてまとまっているのを見ていたら、單純にそれを「良いこと」だと思った

私も日本ではずっと一種の他者として捉えられてきました。彼らは日本人でもなければ、人間ですらない存在として断種されたり、隔離されたりし続けてきました。こういうのはナショナリズムが否定されることによって、印度ネシアや中国などがより小さな地域に分裂して、そうして不安定な体制の多くの小国が相対する泥沼の紛争に陥つていくことなんですよ。それをかるうじて食い止めているのがナショナリズムであるわけです。だからもちろん理想的なかたちではないですが、現実レベルではナショナリズムをすぐ完全否定することはできないと考えています。なので、私はむしろナショナリズムというのは悪いものというよりも、両義的なものとして考えていました。でも、これは意見の違いというよりも、定義の違いなんですね。松本さんはどう考えますか？



松本：まず前提として、ナショナリズムとナショナル・アイデンティティというのは分ける必要があるでしょう。ナショナリズムというものになんらかの問題性があるにしても、ナショナルなものまで否定することはできません。親戚など環境によって人間は大きく規定されますし、そうした環境のなかに息づく「日本のもの」は、消し去れるものではない。そこには江戸時代からの歴史を持っているものも、近代の「作られた伝統」であるものもあると思いますが、どちらにしても、日本、日本人は確かに存在するわけです。

私は日本のナショナリズムには自國に対する不安が常につきまとっているのではないかとしばしば思います。テレビや新聞を見ると、日本人がオリンピックで金メダルをとったり、ノーベル賞を貰つたりすることに対して、我々日本人もなかなかやるじゃないか、といったような言説で溢れている。一方で、常に国際社会における日本人の「地位」が失われることに対する不安があります。たとえば、うちの父や祖父などは、たとえば靖国問題に関する諸外国の高官による記者会見だと、ワールドカップやオリンピックで日本が活躍する映像を見ると、異常なくらい盛り上がっているわけです。もちろん、毎回といふわけではありませんが（笑）。やはり世代間の違いなのでしょうか。見ていて「日本觀」みたいなものが私の世代と、父や祖父の世代とでは全然違うものなのかなあと、ふと考へことがあります。

中丸：よく、ナショナリズムに絡めて、ネイション、ナショナルなものすべていつしょくたに批判する人っていますよね。あれが私はよく分からぬんです。日本国、日本人といふものはそれ 자체として確固として存在しているものであると思うし、それをすべて否定してしまうと、すごくアナーキーな思想になってしまふ。もちろん、ネイションそのものの正統性を問う作業も大切だと思いまます。しかし、それはナショナリズムの「イズム」の部分、すなわちある価値を排他的、ドグマ的に主張するという問題とは次元が異なります。緑り返しになりますが、この区別は

焼き討ち事件とか、ハンセン病の歴史をナショナリズムの問題として捉えることは私にとって新鮮でした。ふつうに暮らしていると全然意識しないですが、ナショナリズム的と言えるような事件は、結構世の中に溢れているものなんですね。

林：自国にいるとやっぱり見えにくいですね。外国、特にヨーロッパの植民地になつたアジアの国などに行くと、ナショナリズムはより見やすいものだと思います。国境線も国が成立の仕方も滅茶苦茶なところが多いですし、インドネシアだって1945年に国家ができたばかりです。日本にいって、なんか昔から日本っていう国があったような錯覚を持つてしまいますが、そういうのを許さないですよ、途上国は。

ネイションとナショナリズム

中丸：よく、ナショナリズムに絡めて、ネイション、ナショナルなものすべていつしょくたに批判する人っていますよね。あれが私はよく分からぬんです。日本国、日本人といふものはそれ 자체として確固として存在しているものであると思うし、それをすべて否定してしまうと、すごくアナーキーな思想になってしまふ。もちろん、ネイションそのものの正統性を問う作業も大切だと思いまます。しかし、それはナショナリズムの「イズム」の部分、すなわちある価値を排他的、ドグマ的に主張するという問題とは次元が異なります。緑り返しになりますが、この区別は

重要だと思うのです。「イズム」というところに目を向ければ、その前に何が来ようと、ナショナリズムと同じ問題が発生すると思うからです。たとえば、リージョナリズムやレイシズムなども、ある意味ナショナリズムと同じように排他的であり、それによって排除される人がいるという点においては同じ効果があるわけですから。

松本…しかしやはりその問題もネイションから切り離せないとは思いますね。ネイションじゃなくてリージョンでも確かに排他性という問題は残るし、本質は変わらない。でも、ネイションが外との区別、敵対によって内部の統一を現実には作ることを考えれば、必然的に排他性、中丸さんが言う意味でのナショナリズムは生まれてきます。そういう意味では、ナショナリズムの問題は、ネイションそのもののは非に関わる問題とも言えると思います。

「ナショナリズム」の多義性

林…ネイションとナショナリズムの関係も含め、ナショナリズムに関する議論をする際に、話している人たちの定義が互いにされているという事態がますますあると思うんですよね。国によつても、世代によつても、そして個々人によつてもナショナリズムの捉え方、定義は全然異なつてている。こうした違ひがどのように私たちに影響するのかを考えても面白いですね。

いですよ、実際そういうふうに使われているんですから。多義性を踏まえ、議論に応じて常に概念整理をしていく必要があると思います。ある人がナショナリズムを批判して、ある人が擁護しているときに、「両者が頭の中に描いているナショナリズムは全く異なる」という可能性があります。この場合、互いの定義をまず整理しなければ、そもそも議論にならないでしよう。

多義性による議論の難しさもあります、ナショナリズムを巡る問題は、主觀や趣味の問題に還元されがちです。議論の決着がつかないとき、結局は各自の趣味の問題だよね、というのが多分いちばん簡単ですからね。でも安易にそういうところに行くべきではない。実際は、ナショナリズムの定義が互いに全然違う可能性が高いですし、価値判断の根拠になつている論理もあるはずですから。そういうものが見えにくく、すぐ感情的で党派的な論争になつてしまいやすいところが、「ナショナリズム」の用語としての危険性だと思います。

中丸…多義性があることは仕方がな
な言葉です。それを使つただけで問題



ですから、ナショナルなものすべてを教条的な「イズム」として信奉する排他的行動原理としての「ナショナリズム」であると括つてしまふんです。そこで思考が停止してしまふんです。

ズム」を警戒しつつ、他方では、ナショナルなものすべて、「イズム」の枠で括つて否定するラベリング装置としての「ナショナリズム」にも注意深くあらざるというのが、矛盾するようですが、私の考える「バランス」の取り方です。

現実主義的ナショナリズム

—次世代安全保障のかたち

総合政策学部専任講師 神保 謙



変化する安全保障の課題

—現在の日本はどのような安全保障の課題を抱えているのでしょうか。

冷戦終結以後、日本を取り巻く安全保障の状況と、自衛隊を巡る国内法制は目まぐるしく変化してきた。それはまた、近年の「ナショナリズムの高揚」とも密接に結びついている。戦後の認識枠組みは崩れ去り、新しい世代の感覚が安全保障を左右するようになつた。原則論から、現実論へ。それは、アジア太平洋における安全保障をどこへ導くのか。安全保障とナショナリズムのつながりを見据え、分析する。

現在の日本の安全保障政策の潮流として最初に挙げられるのは、冷戦終結によって日本の安全保障における国民の関心が「ソ連の脅威」から「日本を取り巻く地域的な脅威」への対応に変化してきたことです。地域的な脅威の先鋭的なものとしては北朝鮮の核やミサイルの問題、中長期的なものとしては中台関係や台頭する中国の軍事力などがあります。それらにどう対応していくのかが、非常に重要な課題になっています。

もう一つの潮流は、9・11以降の国際テロリズムや大量破壊兵器の拡散など、トランスポーダーで迫つてくる脅威への対応が危急の課題となつたことです。いまや、テロ組織が形成されテロリズムの実行に至る過程や、その背景にある貧困の克服や開発といったグローバルな問題にどう関わっていくかが、日本の安全保障を考える際のポイントの一つになつてきました。つまり、安全保障の地理的概念が大きく変容した、と言えるでしょう。

新世代のナショナリズム

—近年の日本の「ナショナリズム高揚」「右傾化」と呼ばれる諸現象は、地域の安全保障のあり方に影響を与えているのでしょうか。

戦後日本のナショナリズムは敗戦の経験を基盤に形成されました。国民は軍隊の保持・不保持や日米安保の賛否を巡る、

いわば「敗戦との対話」を繰り返しながら、軍事的には低姿勢を保ちながら経済を発展させることができが、国内のコンセンサスとなりました。ところが、90年代になつて冷戦が終結を迎え、戦後の日本を支えた55年体制も崩壊した。そうした時代の転換期を経て、安全保障の争点は徐々に具体的な自衛隊の活動範囲を巡るものに変化しました。実際、ここ数年のあいだに、安全保障関連の法律はかつてに比べてはるかに通りやすい状況になつてきています。

このような現象は「日本の右傾化」というよりも、世代交代に伴う国全体のナショナリズムの質的变化の結果ではないでしょうか。戦後日本を支えた団塊の世代は大戦への反省から一定の罪悪感を抱えて諸外国と付き合ってきた。それに対して、彼らの次の世代は、日本の生活水準に満足して育ち、自國にプライドを持ちながら海外と向き合っているわけですね。そして、彼らは繰り返される戦後処理問題にある種の面倒くさを感じながら、もつと現実に即した新しい国際関係を作り立つていています。そうした関係を抜きにしては国家の安全や繁栄が成り立たない世の中になっています。それを踏まえうえで、自国の安全を確保し、より積極的に国際的な安全保障環境を改善でけるよう、防衛政策をもつと現状に即して変えていくべきだ、というかたちで中長期的な日本の利益を追求するという意味での「ナショナリズム」が育つのであれば、それは大変有益なものだと私は思います。一方で、政治・経済的な相互依存性を視野に入れず、他国に対してとにかく強硬論や制裁論を主張する人もいます。そのような攻撃的なナショナリズムが外交の幅を狭めるかたちにまで高まる」とは、スマートではありません。かつてより、国民と外交政策との距離は近くなりました。こうした時代の転機に、中長期的に日本の国益を追求するナショナリズム、そして近隣諸国との付き合い方とは何かということを、我々はしっかりと見ていくべきですね。

—日本は今後、どのようにアジア太平洋における安全保障の構築と国内のナショナリズムの折り合いをつけていくべきでしょうか。

神保謙（じんぱ・けん）
総合政策学部専任講師。専門は国際安全保障論、アジア太平洋安全保障、米国国防政策、東アジア地域主義、「安全保障論」「リージョナル・ガバナンス論A」「政策デザイン論A」などの科目を担当している。



ナショナリズムを考える際に忘れてはいけないのは、現在のアジア・太平洋の安全保障や経済は既に非常に深い相互依存性の下で成り立つていてことです。そうした関係を抜きにしては国家の安全や繁栄が成り立たない世の中になっています。それを踏まえうえで、自国の安全を確保し、より積極的に国際的な安全保障環境を改善でけるよう、防衛政策をもつと現状に即して変えていくべきだ、というかたちで中長期的な日本の利益を追求するという意味での「ナショナリズム」が育つのであれば、それは大変有益なものだと私は思います。一方で、政治・経済的な相互依存性を視野に入れず、他国に対してとにかく強硬論や制裁論を主張する人もいます。そのような攻撃的なナショナリズムが外交の幅を狭めるかたちにまで高まる」とは、スマートではありません。かつてより、国民と外交政策との距離は近くなりました。こうした時代の転機に、中長期的に日本の国益を追求するナショナリズム、そして近隣諸国との付き合い方とは何かということを、我々はしっかりと見ていくべきですね。

「EUナショナリズム」の可能性

——EU全体としてのナショナリズムはありえるのでしょうか。



香川敏幸（かがわ・としゆき）
総合政策学部教授・兼政策・メディア研究科委員
経済学修士。専門は、経済政策、比較経済体制。
中・東欧／EU研究。「比較体制論」「リージョナル・ヨーロッパ論B」「リージョナル・ヨーロッパ論F」「ガバナンス論」「ガバナンス論G」などの科目を担当している。

最も端的な考え方で言えば、「EUナショナリズム」なるものはありません。一般的に、ナショナリズムは国単位で語られるものですからね。EU内に共通するものとして、ヨーロッパ化、歐州化などという概念がありますが、それらをナショナリズムと呼ぶことはありません。ただし、EUは一つの地域的な機構として、アメリカにある種の対抗意識を持つています。たとえばEUの幾つかの国は、11後、アメリカの一国行動主義に対して異議を唱えはじめました。こうしたアメリカに牽制的な言動をとるとき、そこに生まれつつある対立軸が意識されるようになってきているのですね。アメリカが明らかに連邦国家であることに対して、EUも連邦国家であるという議論もあります。

——「EUナショナリズム」は経済ナショナリズムを基盤としたものなのでしょうか。

そうですね。EUが生まれ、ヨーロッパの統合が大きく前進したのは、マーストリヒト条約が成立した1992年です。その大きなきっかけは、アメリカや日本の経済的な競争力が高まり、相対的にヨーロッパの地位が低下したという意識がヨーロッパ人のあいだで強まつたことです。グローバル市場でのヨーロッパの地位低下から「欧洲悲観主義（ユーロペシミズム）」が生まれ、そこから脱却するためにこのEUへの統合は実現したと言えるでしょう。2000年に生まれた、知識や情報をベースにした競争力のある新しい社会の構築を目指すリスボン戦略などは、こうした「経済ナショナリズム」の一つの現れですね。ナショナリズムの話では政治や文化が中心的な問題となりがちですが、EUにおいては、「経済ナショナリズム」の性格が色濃く、その上に新たな公共空間が生まれつつあるのです。

統合を牽引する経済ナショナリズム

——「EUナショナリズム」は経済ナショナリズムを基盤としたものなのでしょうか。

開かれたEUへ
——深化と拡大がそれぞれEUに及ぼす影響は何なのでしょうか。

ます。地域単位でのナショナリズム的な感情も「ナショナリズム」と呼ぶならば、対アメリカという文脈においては、そうしたかたちでの「EUナショナリズム」は存在しているとも言えるでしょう。

統合強化のため、EUは常に加盟国間のつながりを深めさせようとしています。ヨーロッパでは都市や地域、国家そして「ヨーロッパ」などの重層的なアイデンティティを持つ人が少なくありませんが、それは開かれた、高度な「ナショナリズム」への発展と捉えることもできます。

しかし、よく言われるように、深化はそれとコインの表裏の関係にある、「要塞化」につながる恐れがあります。EU域内の統合、自給自足を重視するあまり、EU域外との関係が希薄になるのですね。ヨーロッパ経済共同体設立のロードマップ（1957）以来、ヨーロッパに受け継がれてきた理念の一つですが、これは域外における自由までは保障しないわけです。これは、全世界を自由化しようとするとアメリカとの大きな違いです。

閉鎖的になりがちな深化に対して、拡大はEUをもつと開かれたものにする可能性を持っています。私の見通しで言えばおそらく、EUは北アフリカまでは拡大する可能性があります。マグレブなどサハラ以北の地中海世界は、文化的には広い意味でヨーロッパの一部とも考えられるからです。さらに、もし現在交渉中のトルコが加盟すれば、EUがイスラーム圏を含むことが確認されます。

地域的な共同体を構築するヨーロッパにおいて、国家を超えた「ナショナリズム」の可能性が見え始めている。経済を軸に形成されたこの統一は、どのような市民社会を生み出すのか。そして、国家を超えた「ナショナリズム」があるとすれば、それはどこまで開放的、そして普遍的なものとなりえるのか。EUの壮大なプロジェクトに、新たなタイプの「ナショナリズム」の展開への道を探る。

総合政策学部教授 香川敏幸

変容する欧州連合の「ナショナリズム」



—アメリカにおけるナショナリズムと
はどのようなものなのでしょうか。

ナショナリズムという言葉を今、愛国的心情と捉えるならば、そのもともとの意味は、祖国より強い、生まれた村や町など、自分の属するものに対する愛着や、そこがれだと思うんですね。アメリカは愛国的心情の強い国だと思いますが、そのアメリカでももともと愛着の対象は町や州のように、もう少し狭いものだったんです。現在でも、2億何千万ものアメリカ国民が同じ気持ちを持つていて、これはあり得ないです。故郷、あるいは自分の人種や宗教に対する愛着の方が、国に対する愛着より強いのが自然でしょう。今のようなアメリカという「国」に対する愛着は、アメリカが世界を舞台にして活動し始めた19世紀後半以降の、比較的新しいものなんですね。

そうしたアメリカを何とか一つにまとめているものは、共通の思想や理念なんだと思います。日本やヨーロッパと違つて、建国以来、同じ民族であつたり同じ宗派であつたりという国民全体を束ねる共通点がなく、国としてはなかなかまとまりにくい。だから憲法を守ろう、国旗を大事にしよう、その背後にある自由や平等といった理念を守ろうというような抽象的な思想が、何より大事なんです。また、共通の経験も大きな要素でしょう。みんな世界のどこからアメリカに渡ってきたという共通の記憶、第二次世界大戦の時のドイツや日本、最近ではテロリストなど、共通の敵と戦つたという思い出。日系人や黒人など、最初は仲間はずれに

理想主義のナショナリズム

総合政策学部教授 阿川尚之

多くのエスニック・グループが複雑に入り混じった国家、アメリカ。建国以来その歴史を通じて、アメリカ人は互いに差別しあい、いがみあい、しかし同時に合衆国を自分たちの国として愛し、人はすべて自由で平等であるという理想を掲げて生きてきた。その強固な理想主義には、称賛・批判ともに少なくない。そうした性格を持つアメリカのナショナリズムとは、果たして何なのか。「自由の国」のナショナリズムと、その現実に迫る。

アメリカの理想主義

—アメリカの理念に対して疑問を持つている人はいないのでしょうか。

された人たちも、戦争と共に戦い抜くことで、アメリカ人として認められるようになりました。9・11のテロの後、國歌が歌われ、そこ中に国旗が立つた。「これほど大勢の罪のない人が殺されねばならないほど、アメリカは間違っていただろか。みんなが平等であり、自由であるというアメリカの価値観の何が悪いのか。祖国アメリカに改めて誇りを持とうではないか」という気持ちが、アメリカ人のあいだで強まりました。驚いたことに、3000人が死んだことで、またその悲しみを共有することで、アメリカは一つにまとまつたように感じましたね。

したがって、人間は理想だけで生きている存在ではありません。こうして話しているあいだにも、大地震のあのパキスタンでは、ミルクがなくてあるいは寒さによつて、赤ちゃんが次々に死んでいます。けれども私たちは、それを聞いてもその胸が張り裂けそうにはならないでしょう。当然のことながら、自分の周囲で自分の仲間に起る事故や災害の方が痛みは大きい。人間として全く自然なことです。「立国は私なり、公にあらざるなり」と福澤先生は述べましたが、そもそもナショナリズムはきわめて私的な感情で、国家は本来利己的なものです。アメリカのナショナリズムを含めて、掲げる理想と乗り越えるべき現実のあいだにジレンマが生まれる所以でもあるのですよね。

アメリカの理想主義が迷惑なんだといふ人もいるけれど、アメリカからそれをとつてしまつたら、アメリカでなくなつてしまします。冷戦は終わりましたが、一方で民族や宗教の違いによる価値観の差が生み出され対立が強まつてゐる。たとえばバルカン半島の一部のように、アメリカの軍隊がいなければすぐにでも紛争が勃発する、あるいは再発する地域はいくらでもあります。そして、貧困やテロなど「世界共通の敵」も現れました。僕に言わせれば、世界の中で対立はなくならないし、アメリカにとつての敵もいなくならないですよ。だけど、そのなかでなんとかして、殺し合わなくて生きていけるようにしなきゃいけないし、貧困や災害で苦しんでいる人も助けたいわ



阿川尚之（あがわ・なおゆき）

総合政策学部教授兼政策・メディア研究科委員、米国憲法論、法から見たアメリカ社会、米日関係論、「国際比較法制論A」「社会と法」「リージョナルアートミニ論」、「日米関係史」などの科目を担当している。2002年9月から2005年4月まで、在米日本大使館に公使として勤務し、対米広報に従事。



東アジア共同体形成に向けた、 ナショナリズムの問題と展望

東アジア共同体を形成するのは可能なのだろうか。経済、政治両面で良好な関係を築けていない現在、明るい見通しは立っていない。その阻害要因の一つと考えられるナショナリズムは、どのように捉えられるべきなのか。複雑なモザイクを作り、重なり合い、衝突するナショナリズム。そのナショナリズムの概念に宿る包容性を引き出し、普遍性と融合への端緒を見出す。



対談 小島朋之 × 梅垣理郎



近代化とナショナリズム

編集委員：まず、近代化とナショナリズムの関係についてお聞かせください。

梅垣：アーネスト・ゲルナーというギリス人の政治思想家は「ナショナリズムは近代化とは切り離して考えることができない」と述べていますが、これは重要な指摘ですね。と言うのはこういうことです。近代化以前には、宗教、言語やエスニシティを共有する人間同士が、血縁や地縁にもとづく共同体を軸に生活を維持していた。しかし、生産性の増大を必要とする近代化は、資源の効率的な動員と投資を促進する装置としての近代国家を生み出し、人間をそれまでの狭い世界から解放して、能力にもとづく新しい人間関係に入つて行くことを不可避にします。この結果、より公正な人間関係が生まれるかもしれません、それはまた能力にもとづく可変的な関係もありますから、それ自体ではかつての安定した人間関係や帰属意識を生み出してくれるものではありません。これが、人間のあいだに新しい共同体を求める意識を醸成させます。こうした意識が近代国家という枠組みを得て表現されるのがナショナリズムなんですね。ただ、血縁とか地縁とかが溶解せず、また高次の共同体意識を引き取る国家という枠組みが不安定な多くの発展途上地域があります。こうしたところでは、ナショナリズムは、支配層が地域内住民の意識を操作するツールである場合が少なくありません。

小島：近代化とナショナリズムの関係については私も大筋同じ考え方ですね。

まずアジアに引き寄せて近代化とナショナリズムについて考えると、それは「強いられた近代化」「強いられたナショナリズム」と言えます。日本は若干違うかもしれないけれど、アジアにおける近代化は、Western Impactがかかけでした。中国の近代化の始まりは、1840年代のアヘン戦争だと言われます。この戦争を皮切りにアジア各国が西洋に侵略され、領土を奪われた。中国は眠れる獅子と言われていたのに、国際的な威信を貶められた。そこで、中国は奪われた領土と権益、失った誇りを取り戻す意味で「失地回復」というスローガンを掲げます。そうすると、西洋に対抗して力をつけなければいけないから、強い西洋をコピーして、近代化せざるをえない。このように、近代化というのは強いられたもの、人工的に作られたものでした。

近代化以前、中国では世界は華夷階層秩序にもとづくもの、つまり中国を頂点に世界は階層化されたものであると考えられています。しかし、こうした認識は「中華ナショナリズム」と呼べるようなものではなかった。また、現在でも血のつながりにもとづく宗族は独特な結束を持つていますが、これは第一次的集團によるもので、中国の国家をまとめるために造られた近代的なナショナリズムとは別のものであるわけです。そういう意味では、西洋のネイショナリズムは、アジア諸国のナショナリズムは異質かもしれないですね。

犠牲の覚悟、そして意味

編集委員：そのような歴史的背景を踏まえたうえで、ナショナリズムをどう定義していらっしゃいますか。

梅垣：排他性と包容性の両方の性質を持つのが、ナショナリズムだと考えます。ナショナリズムは自分たち以外との距離を意識する、という意味での排他性を持つ考え方です。

しかしそれと同時に、出自は多様であつても同じ生活単位を共有していると意識できる、非常に包容性のある考え方である。まず、排他性においては何を、何のために排除しようとしているのか、ということへの理解を深めることを考えています。しかし、こうした認識は「中華ナショナリズム」と呼べるようなものではなかった。また、現在でも血のつながりにもとづく宗族は独特な結束を持ついますが、これどこの国に属しているのかではなくて、「属している」という意識そのものに注目することです。それは、中国・韓国・日本という固有名詞をとれば、みんなどこかの国民、という末広がりの意識です。差異を認めあつたうえでの一つの大きな共同体意識とも言えるのではないでしょうか。



さまざまなレベルの多層構造を成しているナショナリズムが対立せずに、いかにしてアジアの平和共存や地域内協調を生み出していくか。今それがまさに問われていますよね。

小島：普遍と特殊、多様と単一という対概念があるとすれば、現在のナショナリズムは、普遍に対する特殊、多様に対する單一でしょう。ナショナリズムというのは他の集団との違いを強調することで、人間が自らの存在理由を確認するものです。対概念の中に位置づけられる以上ナショナリズムもまた相対的なものだから、こうして相対性を意識すれば、そこから多様性を認める普遍的な方向にも進みうる。しかしながら、今この方向に向かうのはなかなか厳しい。

そもそも本来のナショナリズムというのは、ある種の集団や共同体の全体利益のために自らを犠牲にする覚悟もあります。しかし国のために死ぬ覚悟というのが現在の日本人にあるのかと言うと、若い世代にとっては違和感があるでしょう。今の日本に台頭しているナショナリズムがそこまで突き詰めたものかどうかについては、ちょっと疑いの念がありますね。

を考えないといけないでしょ。自分を犠牲にする大きな全体とは日本です、とあまり考えることなく喋っている人もいます。ナショナリズムを分類すると、歐米のように長い時間をかけてさまざまな共同体の発展的統合を通して国民国家を形成した内発型と、アジアのように外圧によって近代化しその過程で領域内の多様な共同体を超える入れものとして国民国家を作らねばならなかつた外発型とがあります。この国民国家形成が個人レベルではどのような意味を持つのかという視点から、ナショナリズムを再考してもいいでしょう。

錯綜する多様なナシヨナリズム

悟”というのがある現在の日本人にあるのかどうか、と言うと、若い世代にとっては違和感があるでしょう。今の日本に台頭しているナショナリズムがそこまで突き詰めたものかどうかについては、ちょっと

小島：中国のナショナリズムを中華民族主義とする捉え方がある。しかしながら、中国には56の民族がいます。汉族は中国全人口の92%を占めていて、圧倒的に漢人が中心なわけですが、残りの8%は少数民族でありながら1億人以上いるわけです。そうすると中国の民族主義は汉族主義なのか、ということになってしまいます。したがって、最近の中国では民族主義というよりむしろ、それに代えて愛国主義がしきりに強調されています。

同時に、現在の中国は「中華民族の偉大な復興」というスローガンを掲げて、民主・文明の大國を2050年までに実現しようとしている。それは

錯綜する多様なナショナリズム
編集委員：現在の東アジアにおけるナショナリズムはどのような状況なのでしょうか。

中華帝国という、ネーション・ステートよりも歴史的な中国、一種のエンパワーメントとしての中国をベースにしています。その点も頭に入れておかなければいけない。



この国民国家形成が個人レベルではどのような意味を持つのかという視点から、ナショナリズムを再考してもいいでしょう。

編集委員：ナショナリズムは東アジア共同体の形成を妨げているのでしょうか。



小島朋之(こじま・ともゆき)
総合政策学部長・教授兼政策・メディア研究科委員。カリフオルニア大学バークレー校にて歴史学を学ぶ。慶應義塾大学大学院法学研究科(政治学専攻)博士課程修了。専攻は東アジア論、現代中国論、国際関係論。「SFC総合講座A」「地域研究C」などの科目を担当。最新の著書に『崛起(くつき)する中国』がある。

梅垣：昨今の韓流ブームに象徴されるように、韓国の文化は日本に入ってきていました。日本のアニメも韓国、東南アジアや中国を席巻している。経済はじめ、文化や精神のレベルにおいても東アジア地域内の相互浸透はものすごく進んでいますよね。そういう状況下で、日本人や韓国人、中国人という枠にこだわっていても仕方がない。現状はそれを超えた、アジア人や地球人というレベルへ向かっている。つまり、国家を超えた融合が進んでいますよね。それでも韓国や中国には反日ナショナリズムが存在するし、日本にも残念ながら同じような種類のナショナリズムがある。こういうことが起きるのは、融合すればするほど、人は自らの特殊性を確認したがる傾向にあるからです。そういった、融合と差別化という側面が、ナショナリズムの厄介な問題になってしまいます。

さらに考えるべき問題点として、アジアにおけるナショナリズムの多層構造が挙げられます。100年以上前に近代化を経験した日本のナショナリズム、西洋

と接触して日本の支配に抵抗し、民族の解放と独立を勝ち取ろうとした中国におけるナショナリズム、新興独立国の中からさらなる独立を目指している東南アジアにおけるナショナリズム、近年ようやく自分が台湾人であることに目覚めた台湾のナショナリズム。アジアには多様なナショナリズムが、複雑に錯綜して存在しています。そういった、さまざまレベルの多層構造を成しているナショナリズムが対立せずに、いかにしてアジアの平和共存や地域内協調を生み出していくか。今それがまさに問われていますよね。

世界文明の融合点

編集委員：東アジア共同体形成に向けて、どのような展望を持ついらっしゃいますか。

小島：東南アジア史研究者のアンソニー・リードによると「東南アジアは大航海時代以前から世界文明の融合点」だった。あらゆる文明がるつぼのように存在して、そのなかでそれぞれの文明が共存できるような仕組みを作り上げてきた。そういう

思いますが、普遍性や多様性の容認という方向に向かうためには、それぞれの相違点を理解し合って、受け入れる必要がある。それが異なるナショナリズムの交差であって、インターナショナリズムであると考えます。

梅垣：かつて、世界の融合点がアジアの各地に存在していました。ヴェトナムの中部にホイянという町があります。そこでは、16世紀まで日本、中国、中東、オランダ、ポルトガルなどの商人が往来し、さまざまな国の産物を取引していました。つまり、以前は地域を越える大きなつながり（第一層）が存在していた。これが18世紀末以降、西洋が産業革命を



梅垣理郎(うめがき・みちお)
総合政策学部教授兼政策・メディア研究科委員。プリンストン大学にて政治学博士号を取得。専攻は比較近代化論と国際政治史。「現代政治論」「比較近代化論」「国際関係論」「概念構築F」などの科目を担当。現場や個人といった、ミクロな視点からの国際政治を唱えている。

つた歴史的経験をアジアは持っているのだから、アジアを包み込む大きな共同体が形成し、近代国家を作る。その経験が伝播すると、生活単位としての国民国家が定着してゆく（第二層）。実はもう一つ、第三層があります。これは、国のような

経験し、近代国家を作る。その経験が伝播すると、生活単位としての国民国家が定着してゆく（第二層）。実はもう一つ、第三層があります。これは、国のような

関係などの層です。今のグローバリゼー

ーションの時代では、これら三つの層がお互いにどのような影響を与えているのか、

見極める必要があります。メコン川流域の開発計画のように、実際に個々の国益

（第二層）を越える地域的な利益を考えていますね。普遍性や多様性の容認とい

う方向に向かうためには、それぞれの相違点を理解し合って、受け入れる必要があ

る。それが異なるナショナリズムの交差であって、インターナショナリズムで

生むのか。地域を越えるという発想と、ナショナリズムをどのように調和させられ

ばいいのか。調和の結果が、東アジアの共同体という意識なのか。これを考

るために、ナショナリズムの持つ排他性と包容力をと常に意識していかなければならぬでしょう。

ナショナリズムって何?

—思想史の視座から

寄稿 総合政策学部教授 堀 茂樹

「ナショナリズム」は、数ある政治用語の中でも最も多義的で曖昧な部類に入る。それだけに、この語を使う際にはとくに厳密を期す必要がある。ナショナル・アイデンティティの自覚やネーションへの帰属意識、パトリオティズムなどとの違いに目を向けつつ、ナショナリズムという言葉が歴史の中で担ってきた意味と、イデオロギーとしての問題性を考える。

「ナショナリズム」—— Nationalism (英)、Nationalisme (仏) —— という語はおそらく英國起源なのですが、いつたんフランス語の中に入つて特別な意味を帯び、その上で国際的に流通するようになったようです。フランスである程度広く用いられ始めたのはどう早く見積もつても19世紀後半です。1874年刊行のラルース大辞典を見るところから語義が二つあったことが分かります。自國や自民族を盲目的に賛美し、他国や他民族を侮蔑する態度、つまり偏狭な愛国心を意味する一方で、19世紀ヨーロッパに勃興した、ネーションの独立ないし自律を求める運動をも指していたのです。ところが、世纪末になると、また別の語義が付け加わりました。すなわち、ナショナルな価値と利益の首位性という主張です。この三つのナショナリズムこそ、当時台頭したナショナリストたち (M・バレス、Ch・モーラス等) のイデオロギーでした。今日でもなお、「ナショナリズム」の概念はおおむねこのような三層構造を成しているように思われます。

以上のことと確認した上でまず言えるのは、ナショナル・アイデンティティの自覚、ネーションへの帰属意識、祖国への自発的な愛といったものを、ただちにナショナリズムと見做すわけにはいかないということでしょう。自己至上主義や排外主義を伴わないパト

リオティズムは、ナショナリズムと混同されるべきではありません。次に、オロギーとしてのナショナリズムが至上の価値とするのは、「市民」という政治的単位を核とする普遍主義的構築物としての近代的ネーションではあります。そうではなくて、歴史的共同性と文化的特殊性によって定義される工スニツクな共同体か、もしくは、そのような閉じられた同一性の共同体として想像される場合の国家です。ですから、ナショナリズムは実は、あらゆるネーションに付随するイデオロギーではないのです。それどころか、近代的・市民的ネーションは、本来の普遍主義とリベラリズムを国家の内外で堅持する限りにおいて、エスニシティを超えてナショナリズムに立ちはだかるプロジェクトだとさえいえます。

さまざまな帝国の支配に対しても、ナショナリズムの独立を求めて歴史的ナショナリズムは、リベラルな観点から見ても正当な運動だったわけですが、それでも、その中ですでに民族的・文化的共同体主義のラディカル化という躊躇の石が含まれていたと考えるべきなのかもしれません。結局、今日、政治的レベルにおいてナショナリズムと呼ばれるべきは、一方では既存のネーションの利害を超越する普遍的な価値や機関の存在をいつさい認めないとすることです。その上でナショナリストは、彼が「公」と見做すグループに対する忠誠の名にて想像される場合の国家です。ですから、ナショナリズムは実は、あらゆるネーションに付随するイデオロギーではないのです。それどころか、近代的・市民的ネーションは、本来の普遍主義とリベラリズムを国家の内外で堅持する限りにおいて、エスニシティを超えてナショナリズムに立ちはだかるプロジェクトだと見えます。献身、自己犠牲というわけです。ところがそこには心理のカラクリがあります。そこで、「私」の自由と利益を打ち捨てたかに見えた自我を実はグループに投影していく、これが個人としては捨てたかに見えた自我を実はグループに投影していく、これが個人として自我を主張できる気弱な人たちに癒しをもたらす面があるのは、基本的にこういうわけです。



堀 茂樹 (ほり・しげき)
総合政策学部教授兼政策・メディア研究科委員。専門はフランス思想史・現代文学。フランス語のほか、「近代思想」、「比較文化D」、「トランスクルチャー論」などの科目を担当している。KEIO SFC REVIEWの担当幹事でもある。

の名においてそのまま主権国家たるうとする運動です。この後者は、民族と文化を超える普遍性の地平へと開かれた市民的ネーションが主権国家を創設するのとは似て非なる運動です。

政策・メディア 研究科助教授

寄稿 土屋大洋
Tsuchiya Motohiro

情報社会と ナショナリズム

インターネットの普及は個人と世界を瞬時につなぐことを可能にし、世界のボーダレス化を象徴する代表的な出来事と見なされてきた。しかし、その一方で中国における反日デモに見られるように、ITがナショナリズム的な現象を煽り、助長することに使われるといった問題が生じている。世界各国がネットワークでつながることが、ナショナリズムにどのような影響を与えていたのだろうか。新たな対立の生成と、グローバル・コミュニティ形成への可能性。人間の日常へと進出するウェブの世界は、その両義性を持っている。

2004年にインターネットと文化というテーマでドイツ、チュニジア、ペルーを調査した。いずれも非英語圏の国々である。インターネットが普及し始めた1990年代半ば、インターネットの主流言語は英語であり、世界は英語化していくと言っていた。しかし、現実には必ずしもそうではない。

各国で共通していたのは、人々がインターネットでグローバルなコミュニケーションをほとんどしていないということだ。電子メールの相手は家族や友人や仕事の相手である。すでに知っている人のコミュニケーションが大半を占めている。巡回するウェブサイトは自分の母国語のものがほとんどだ。それもきわめてローカルなウェブサイトを見ている。ヨーロッパは統合プロセスを進めしており、2004年にはEU加盟国の数は25になつた。そこではヨーロッパ人としてのアイデンティティが求められている。通貨もほとんどの国でユーロが導入されている。しかし、ドイツ

の人々はドイツ語を捨て去ったわけではなく、ドイツ語で電子メールを交換し、ドイツ語のウェブ・サイトを見ている。南米の国々ではスペイン語が広く使われているが、ペルーの人々はわざわざスペインのニュースを探している。スペイン語の話しが、書き言葉は標準化が行なわれている。それでもかかわらず、人々が求めるのはローカルな情報なのだ。

チュニジアはアフリカ北岸に位置し、地中海に面するアラブ国家である。かつてローマと通商霸権を争ったカルタゴの末裔だ。イスラムを信仰する人々の共通語はアラビア語だが、ここではかつての宗主国フランスの影響が強く、知識層はフランス語で電子メールを交わしている。アラビア語に比べて入力が楽だということも大きい。しかし、だからといって英語の代わりにフランス語によるグローバル化が進んでいいわけでもない。国内のデジタル・デバイドが解消され、より多くの人がインターネットを使うようになるにつれ、アラビア語のコンテンツが求められるようになってきている。イスラムの教えはアラビア語を介して語られるべきであり、イスラム共通の家を作り上げていくためにはアラブ諸国で共通の言語であるアラビア語のほうが都合がいい。

つまり、世界はインターネット時代においても分断されているのだ。インターネットが普及して10年がたつても、英語だけで情報会話を語ることはできない。

なぜ世界は分断されたままなのか。インターネットでは考え方を同じくする人たちの群れを作りやすい。自分と価値観が近い人なら安心してコミュニケーションできる。嫌いな人からのメールはフィルターをかけて読ま

ないようにもできる。自分の興味のある掲示板やブログは毎日見に行くが、興味のないとこには存在させ知らない。SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）では友人をリスト化し、評価し合う。インターネットでは匿名でコミュニケーションできるのに、多くの人が実世界のアイデンティティを引きずつてコミュニケーションし、そこに安心感を見いだしている。

同好の士の群れが時に大きくなったり、ナショナリズムとも運動する。2005年4月に起きた中国の反日デモは多くの人にショックを与えた。日本の政策に不満を持つ学生たちの群れに、社会の底辺にいる不満層が加わって大きな群れが一時的にできあがり、共通の敵をめがけて襲いかかった。インターネットは平和的にも対立的にも使うことができる。

ランド研究所（注）のジョン・アーキラとデービッド・ロンフェルトは「サイバーウォー」がやってくる」という論文の中で、ネットウォードとサイバーウォードを区別している。

ネットウォードとは国家と国家、あるいは社会と社会の間で行なわれる観念的な紛争である。

相手の人々が「知っている」と思っていることを破壊し、傷つけ、変えてしまう。つまり、相手の知識や常識を非難したり偽情報を与えたりすることで、何を信じていいのか分からぬ混乱した状態にしてしまい、政治的に優位に立とうとするのだ。それに対して、サイバーウォードやサイバーテロへの対策が急がれているが、ネットウォードの影響の大きさも無視できない。

中国の反日デモはおそらく中国政府が企図したものではないだろう。中国政府が得たものは何もないからだ。諸外国から批判され、日本の人々の反中感情を煽り、検閲システム

がきちんと機能していないことを露呈してしまった。重要なのは、結果的に二つの社会の間でネットウォードが起きたことである。ある人々の群れが別の群れを攻撃したのだ。

こうした現象は今後も出てくるだろう。フィリピンや韓国では、国内政治活動にインターネットや携帯電話が活用されている。そうした力が海外に向かない保証はない。

社会の下でうごめいているマグマはどこで吹き出していくか分からぬ。さらに、今まで無視されたような他愛のないことに簡単に火がつくようになったという側面もある。テロリストたちによるサイバーウォーだけでなく、人々の頭の中をかき乱し、不安にさせ、つけ込むとするネットウォードにも備える必要がある。

作家のハワード・ラインゴールドが「スマートモブズ（smart mobs）」と呼んだように、インターネットや携帯電話を駆使するモブ（大衆、群衆、暴徒）たちが政治的な力を持ち始めている。しかし、その力を良い方向に使えないれば、スマートではなくスマート・ピッドなモブズになってしまうだろう。

今のところ情報社会におけるモブたちはナショナリズムを煽る形で現れてきている。しかし、それが逆の方向、つまり、コスマポリタン的なグローバル・コミュニティの形成に使えないという理由もない。本当にスマートなモブが出てくるかどうかが、次の情報社会の10年を見る際の論点となるのではないだろうか。

（注）

ランド研究所

米国の非営利研究組織（シンクタンク）。1948年の設立以来、米国政府への国防に関する政策提言をはじめ、さまざまな分野での多様な研究を行なっている。



土屋大洋(つちや・もとひろ)

政策・メディア研究科助教授兼総合政策学部助教授。専門は国際関係論、情報社会論、公共政策論。SFCでは「公共政策B」「国際関係論」「リージョナルアナトミー論H」などの科目を、法学部では「国際政治理論」を担当している。



おかしらマニフェスト

誰よりもSFCのことを想い、みんなを支える、キャンパスの大黒柱。

10月1日。おかしらたちの新しい任期が始まった。

SFCの新たな2年間の始まりである。新たに就任したおかしらたちには、きっと強い信念があるに違いない。

今回、おかしらたちからマニフェストを入手した。

それぞれがそれぞれの思いを胸に秘め、綴るおかしらのマニフェスト。

ここはひとつ、彼らの言葉に宿る熱い意志を、感じてほしい。

おかしらマニフェスト

環境情報学部長 富田 勝

1. いい意味で「いいかげん」、適度にふざけた雰囲気こそがSFCだ

福澤諭吉は官僚的なことが大嫌い。一方で大のいたずら好き。でも締めるところは締め、やるときはとことんやる。SFCはそんな福澤精神が満ち溢れるキャンパスなのだ。

最近、学生の面白い企画を応援するために、若手教員グループを組織しました。面白半分、まじめ半分。そんな提案・企画を歓迎、積極的に応援します。

2. 研究プロジェクトは究極の"遊び"である

誰もやったことのないことを世界で初めてやる。誰も知らないことを世界で初めて見つける。そんな知的興奮にまさる娯楽など他にあるだろうか。もちろん、うまく行くとは限らない。教員や仲間と一緒にになって試行錯誤する。そんな経験は一生の宝です。4月と9月のガイダンス期間中の、学生主体のプロジェクト紹介イベントの開催をはじめ、研究プロジェクトのさらなる発展に向けて取り組みます。

3. 卒業制作の重要性の強調

卒業制作は、SFC教育の本丸であり、4年間の集大成です。これなしで卒業すると、「SFC 4年間で何を学びましたか?」という質問に答えられなくなってしまいます。1、2年生の諸君も今から卒業制作に向けた長期計画を考えはじめてください。ちなみに、2007年度入学生からは、卒業制作を必修にしました。卒業制作の現在以上の普及、充実を推進します。



富田 勝

遊びである

研究は究極の

看護医療学部長 佐藤蓉子

1. 学部運営の基盤強化

看護医療学部は、昨年、一期生を送り出し、教育・研究基盤をさらに強化すべき第二の局面に入ったと考えている。これまでの4年間の教育・運営において明らかになっている課題に対して前向きに取り組む。

2. FD活動の強化、特に助手（有期）のキャリア支援（注）

本学部は、看護師・保健師等の国家試験受験資格を得るために、病院などの実習が必修化されている。その指導者として有期教員（助手）が多数必要である。この有期教員のキャリア支援のための方策を考える。

3. カリキュラム評価と将来的カリキュラム改定に向けての準備

今春の入学生から適用される新しく改正されたカリキュラムへのスマーズな移行を第一に考慮する。また、近々予測される厚生労働省のカリキュラム改定に対応するために、現在のカリキュラムを評価しつつ、準備を進めていく。



佐藤 蓉子

説明責任を果たす

(注) FD活動 Faculty Development活動の略。教師の教育能力の開発・成長・強化を目指す活動で、具体的には授業展開の方法論、実習の指導法についての研修など。広くは、研究者としての能力強化も含む。

おかしうマニフェスト

総合政策学部長 小島朋之

1. 「あっけらかん」

沈思黙考も悪くない、不言実行も悪くない。しかしSFCはむしろ大言壮語、有言実行の心を大切にしたい。思ったこと、関心を抱いたこと、実現したいことを「あっけらかん」と口にして、失敗を恐れずに試みることができるキャンパスを目指す。失敗してこそ、学ぶことができる。

2. 「半学半教」

知らないことを知らないと「あっけらかん」にいい、知れば知らない人に教える「半学半教」で、さらに学びを深めることができる。教員・院生・学生による「半学半教」で先端研究をさらに深化させることを狙う。

3. 「SFC総合政策学」の確立

SFCの総合政策学部は日本で総合政策学を掲げた最初の学部で、いま世界水準の研究を育てるCOE (Center of Excellence) で「日本・アジアにおける総合政策学先導拠点形成」に取り組んでいる。「人間交際の益を為さんとの志」をもつ「実学」としての総合政策学の確立に向けた、教員・学生一体の取り組みを推進する。



人間交際

健康マネジメント研究科委員長 吉野肇一

1. 誕生から死にいたるまで変化する「健康状態」概念の確立

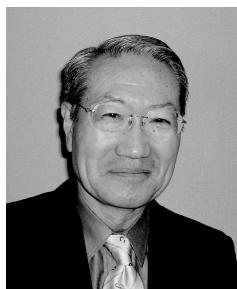
人口の高齢化/医療の進歩などを踏まえ、従来の健康と非健康（疾病/障害）という概念を超えて、それらを連続的なものとして捉え直す新しい概念である「健康状態」を創生し、発展させる。

2. 組織マネジメントと個人マネジメントの融合

個人のマネジメントと組織のそれを区別して考えてきたこれまでの慣習を打ち破り、これら両者が融合することによって、相加ではなく相乗効果を生む可能性を追求する。

3. スポーツ応用/スポーツビジネスの拡大

医学・心理学的身体・精神理論に準拠して、スポーツをアスリートから身障者にまで適用し、スポーツビジネスはもちろん、リハビリのスポーツ化による新しい展開を目指す。



健康マネジメントの
新概念

吉野肇一



政策・メディア研究科委員長 德田英幸

1. 大学院と学部の連携強化とカリキュラム改革

大学院のプログラムの再編により、政策・メディア研究科の位置づけをより明確にすることができたが、先端研究と教育が融合した形こそ、SFCの強みである。さらなる学部カリキュラムと大学院の連携を重視する。また、カリキュラムの硬直化を起こさないためにも4-5年ごとにシステムを見直す仕組みのルーチン化を進める。

2. 先端性・国際性豊かなキャンパスの確立

SFCの先端性及び国際性の更なる向上を目指す。オープンなキャンパスカルチャーや情報インフラを生かし、海外の大学や大学院との連携を積極的に進め、国際コースの設置、ダブルディグリーやジョイントディグリー制度、国際インターンシップ、フィールドワークなどを充実し、国際的に活躍できるSFC生を輩出していくことを目指す。

3. ユビキタス情報環境やインキュベーション環境の整備

SFC開設時に構築した先端的情報環境は、多くの大学に模倣された。E-learning環境やワイヤレスLAN、RFID、センサーネットワークの利用環境を整備するだけにとどまらず、SFCのコミュニティや個人ひとりひとりをエンパワーできる新しいユビキタス情報環境とインキュベーション環境の整備に取り組む。



德田英幸

知的創発

SFC研究所所長 國領二郎

1. 世界中が見学に押し寄せるキャンパスを

SFCにはかつてネットワーク環境のためだけでなく、研究・教育コンセプトの先端性ゆえに日本中から見学者が押し寄せた。今度は環境・高齢化社会・セキュリティをはじめとした、21世紀社会の課題にぶっちぎり先端の解を示すキャンパスを作り、世界中から見学者を集めたい。

2. 地域全体と共に発展したい

圏央道が開通したり、新幹線が停まる構想がある中で、キャンパスを地域や世界全体の中に位置づけ、地域ごと、日本ごと、世界ごと進化させるハブにしたい。
(とりあえずSFCの前に駅がほしい……)

3. 社会全体をSFCの研究室に

研究室の中で研究するのではなくて、社会を研究室とし、社会に具体的に働きかける中で学べるようにしたい。学んだことを社会に還元し、その中から新たな学びを得るのがSFCの真髄だと思う。インキュベーションの取り組みもその一貫。



國領二郎

鬼滅
せ
る

When I was young



体育会端艇部時代、自宅庭にて

教壇で、魅力ある講義をしているあの教員は、どんな人なのだろう。

学生が教員の歩んできた道を知る機会は、そうたびたびあるわけではない。

しかし、そんな教員にも若かりし頃、学生だった時代があった。

どのような学生時代をすごしたのか。当時の経験がその後の人生にどのような影響を与えたのか。

この連載では、学生時代の体験を中心に、教員たちの人生のターニングポイントを探る。

連載第18回目の今回は、吉野肇一健康マネジメント研究科委員長に話を聞いた。

やつぱりわらじは「2足」まで

私が医師になろうと思いつ始めたのは小学生の頃です。叔父や親戚が医師だつたため、医師はわりといい生活が安定する職業だということを知つており、外科を目指しました。当時は第二次世界大戦が終わつたばかりで、日本はまだ貧しかつた。幸い私は小才が利いていたため、親からも医師を勧められていました。それに、私の叔父は、子供の私から見てもとても優秀な医師で、私もああいうすばらしい人になりたいと思っていたからね。

外科を目指した理由は結構単純です。今はCT(コンピューター断層撮影)やMRI(磁気共鳴画像法)、X線を使わない生体内情報の画像化装置などの検査機器が発達して体の中は相当分かるようになつたけど、私の学生時代にはそういうものがなかつた。体の中は開けてみないと分からなかつたんです。私は手先の器用さには自信もあつたし、手術のできる外科を目指しました。

学部時代には、ボート部に入つていました。ボートは入部前から興味があつたわけではなく、ウエイトトレーニングを一緒にしていたボート部の人々に勧説されて入りました。でも入つてから「しまつたな」と思いましたね。あまりに辛くて(笑)。医学部のボート部は体育会のボート部とみなされるんですよ。それだけにハードでした。6年生になるまでは、1年間の三分の一以上は合宿生活。だから、合宿所で早朝5時から

川に出て1時間くらい練習してから、みんなでバスに乗って試験を受けに行きました。練習が辛いからみんなどんどんやめていくんですよ。でも、私は誰かがやめていくたびに「俺は頑張るぞ」と思つてね。それで一生懸命続けました。辛かつたことは辛かつたけど、一つのスポーツをやり遂げた。という自信は自負心にもつながるからね。だからやめなかつた。

どんなに忙くとも二つのことはできることのが昔から私の主義なんですよ。私の学生時代においては、第一に学業、第二にスポーツ。三つのことをしようとする、もうこなしきれないんですよ。でも二つなら全然楽勝です。勉強は短期集中型でしたし。だから、かなり余裕を持つてやっていたと思います。その代わり、他に何もできなかつた。高校時代にやっていたバンドも、麻雀も、ナンパもしたかった。でも一切しなかつた。たくさんのこと手を出して挫折した人を見てるからね。やつぱりこなせるのは二つだけだな。

人生の岐路に迷い無し

学業もスポーツも最後までやりきつた。なんで続けられたかって、まあ一つはDNAだと思うよ(笑)。私の父親は早く亡くなつたからよくは覚えてないけど、母親は相當に意志の強い人だつた。あとは自分の中の信念に従つて常に行動してきたということだと思います。だ

から進路の選択といった人生的の岐路で迷つたことはないよ。もちろんボート部であれだけ辛いスポーツをやつているんだから、どんなことがあっても辛くないという、自分に対する自信と自負もあつただろうね。

挫折をしたことは、学生時代はないです。ただドイツに渡つた時は挫折というか、猛烈に苦労しました。ドイツに渡つた当初はもうカルチャーショックでしたね。たとえば、日本で手術をするとなれば、その日は家族みんなが来て、手術が終わるまで待つてゐるよね。でも、ドイツではそんなこと全然しない。誰も来ない。全部任せっきり。そういう意味ではさっぱりしてゐると思いました。それから日本では、医者は手術後万が一のときのために5、6時間は病院にいることになつています。でもドイツはそんなことは関係なしに、5時間になつたら医者はみんな家に帰つてしまふ。土日なんて当番でない限り絶対來ないしね。そうして自分の家族、家族と過ごす時間を大切にしてゐるのです。ドイツでは、そういう文化の違いを目の当たりにしました。だから、感受性の豊かな若いうちに、異文化にたっぷりと触れた方が良いと思います。そういうことで人間の感性は豊かになると思う。高校時代に最も影響を受けた本、『チボリ著』も、異文化と人の心の動きの描写が新鮮なところが好きだつたし。福澤先生が、外国語を勉強するのが好きだつたっていうのはそういう面もあると思

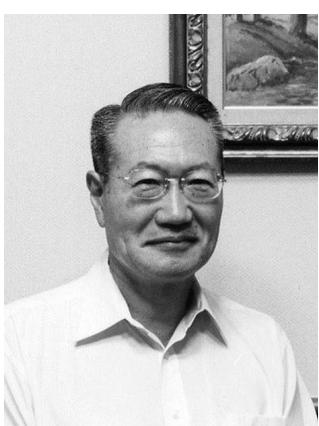
うんだよね。外国语は単にコミュニケーションのツールじやなくて、異文化に対する一つのツールなのだと私は思います。

「笑顔と謙虚さ」が運を呼ぶ

現在の医学部生は私たちの頃と比べて、確実に物質的には豊かになつてゐるけれど、精神的には弱くなつてゐると思いますね。それから私たちの頃より学業に縛られてゐる気がします。勉強が厳しくなつてきたというのは、それだけ医学教育が充実してきただということだから、その意味では今の学生は良い環境に恵まれてゐると思う。私たちの頃の医学教育は、非常に甘かつたからね。

当時の国試のレベルは非常に易しかつたから、仲間の三分の一ぐらいはアメリカの国家試験も受けたんですよ。他の大学と差をつけるためにね。まあ慶應の名前を上げて自分たちの名誉心を満足させていたんですね。でも今は教育体制ががつちりしてて、プロフェッショナルナレッジが高まる分、人間性は画一的になる、という危険性があると思います。医師という職業は、専門性が高くてきわめて特殊だから、ある程度学業に縛られるのはやむを得ないと思うけど、今の学生は我々のときに比べてひ弱だと思いますよ。

私の座右の銘は「笑顔と謙虚さ」です。基本的に物事がうまくいくのは「実力」



吉野肇一
(よしの・けいいち)

健康マネジメント研究科委員長兼看護医療学部教授。専攻は、外科学(一般・消化器)。慶應義塾大学大学院医学研究科外科学博士課程修了。ドイツBraunschweig市立病院外科病棟医長後、東京歯科大学外科学講座主任教授・同大市川総合病院外科副院長を経て、2001年から現職。現在は医学部外科学教室兼担教授、日本胃癌学会理事などを務める。著書に『胃・十二指腸の病気を治す本』(主婦と生活社、1998年)などがある。

Communication & Network Co-net

～未来をつくる卒業生たち～

うがりょうすけ

第17回 宇賀亮介さん

一級建築士事務所ツイプ代表

1993年 同志社大学経済学部卒業

1996年 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程修了

2000年 一級建築士事務所「ツイプ」設立



建築で社会を変える

かつて「未来からの留学生」としてSFCで学んだ学生たちが、いま実際に未来を創り始めている。彼らはSFCで何を学んでいたのだろう？ 現在はどんな職業についているのだろう？ この企画では、卒業生に社会での奮闘の様子を聞くとともに、今後社会ではばたこうとする現役SFC生へのアドバイスを求める。

今回は政策・メディア研究科1期生で、一級建築士事務所「ツイプ」代表の宇賀亮介さんにインタビューした。

独立して建築事務所を立ち上げるまでの経緯を教えてください。

生まれ育ちは神戸です。震災前の神戸に残っていた戦前の古い異人館や洋館が好きで、中学生時代はそいつた建物の写真を撮ったりしていました。高校に入学した頃はバブルの絶頂期で、そいつた古き良き建物がどんどん取り壊されていき、その跡地に建設されるビルは豆腐のようなつまらないビルや駐車場だったり。このような変わりゆく街を見ることが建築や都市計画に興味を持つきっかけになつたのですが、数学の出来が悪かったので文系に進みました。そして、たまたま合格した経済学部に入ったんです。だから、特に経済を勉強したいとは思っていなかつたし、興味も全くありませんでした。経済学部に籍を置きつつも、他大学の建築学科の授業を聴講したり、デッサン教室や製図学校へ通つたりしていました。でも今になってみると、大学時代に身につけた経済的なものの考え方方が建築のアイディアを出す上で役に立ついると感じます。経済学はあらゆる面で社会のベースとなつていて、人間の本能や考え方方に根ざしているものだからでしょうね。

学部卒業後は建築に近い仕事をしたいと思って鹿島建設に就職したのですが、文系採用だったので事務系の仕事が多く、あこがれていた建築の仕事とは違いました。やはり建築や都市計画を勉強しようと決めた頃、都市計画で有名な伊藤滋先生（注1）がSFCにいらっしゃるという話をたまたま聞いて、政策・メディア研究科に入学したのです。

—政策・メディア研究科で得たものは何ですか？

大学院での一番の収穫は、好奇心旺盛な周りの学生と議論をして、物事を広い視野で見ることを学べたことです。僕らが院生だった頃は、建築系、都市計画系の研究室みあったものの、ひっくるめて一つの研究室みたものです。また、政策・メディア研究科全体でも学生は150人ほどしかいなかつたので、いろんな方面の人と交流がありました。院生時代の友達とは、今でも一緒に仕事をしたり、コンペを出したりしています。他の大学の工学部なんかと比べれば、SFCには力学や施工といった実務に役立ちそうな授業はそんなにありませんが、それは卒業してから勉強すれば十分間に合います。大学や大学院では、一級建築士の資格を取るための受験スキルを身につけることより、もっと幅広いことを学ぶことが大切なのだと思います。

—卒業後はどのような進路を取つたのですか？

大学院を卒業してから、設計事務所としては規模が大きいRIAに3年間勤めました。そこで、駅前の再開発のための計画を立てて、都市計画と建築の中間領域のようないくつかの仕事をしました。その後から、院生時代の仲間と京都市主催の都市計画の国際コンペに応募して入賞したり、建築のアイディアコンペに個人的に応募して入賞したりするようになって、自信がついてきたんです。やっぱり自分で設計をしたいと思い、池田靖史先生（注2）のアトリエ事務所で修行を始めました。アトリエ事務所とは、所長個人の名で仕事を請け負っているような小規模の設計事務所で、所員がいすれは独立することを前提として経験を積む場なんです。池田先生の事務所では、東北公益文科大学や慶應の普通部の設計に関わる、また建物が設計図どおりに建てられて

いるかどうかチェックをする「監理」なども経験しました。その後、2000年に独立して、建築設計事務所を立ち上げました。

建築事務所での事業内容

—建築事務所では、どんなお仕事をなさっているのですか？

個人住宅、飲食店、ビルの改修や産業処理場など多種多様な建物の設計から監理まで手がけています。

最近では2005年2月に完成した、埼玉県草加市のフランス料理店の設計が面白かったです。築30年の建売住宅の1階をフランス料理店に、2階をシェフの家に改装しました。コンセプトは「主婦の艶」。草加市は都心から電車で30分ほどの郊外で、このフランス料理店の周辺にはファミレスのようなエンターテインメントしかないんです。昼間に駅前のドトールコーヒーに入ると、ものすごくけだるい雰囲気が漂っていて、何の楽しみもなさそうな、あまりおしゃれとは言えない中年の女性がたくさんいる。そこで、ちょっと贅沢でおいしいものを食べられる、格式高いフランス料理店を開くことによって、地域に今までになかった艶のあるコミュニケーションスペースを提供したいと。銀座でもないのに、子供連れお断りのレストランなんですよ。意外にもおじさんがキャバクラ嬢と食事をしに来る場としてよく利用されているようです(笑)。PTAの会議をしたり、主婦たちが落ち着いて会話をしたりする場にもなっているんですね。JCDデザイン賞の新人賞を受賞して雑誌にも掲載されたので、周辺に住んでいる建築家やインテリアデザイナーがよく見に来るようにです。



JCDデザイン賞2005新人賞を受賞した草加のレストラン

ひとりの建築士として

—どんなこだわりを持って、仕事をしているのですか？

まずは、施主に満足してもらうこと。毎回

デザインを考えるときは本当にしんどい。苦しいですよ。でも、自分が設計した建物が完

成して施主が満足してくれたら本当にうれし

いし、達成感を感じます。

少年時代と変わらず僕は古い建物がいまだに好きです。だから、事務所は九段下に構えています。都心にも関わらず靖国神社や千鳥ヶ淵の緑があつて、呉服屋さんや和菓子屋さんなど、昔ながらの家屋が残っています。事務所が入っているビルも昭和初期に建てられたものなんですよ。僕が古い建物に魅かれるのは、長年にわたって周囲の人々に愛着を持たれ、大切にされることによって生み出されてきた「独特の質感」があるからです。一本のボールペンにしても、持ちやすさや書きやすさ、デザインの良さによって愛着が湧く。僕が設計した建物も人々に愛され、五十年後、百年後

にそういう「独特的の質感」を持つようになつほしいなと思っています。

—今後の抱負をお聞かせください。

生きているうちにどうしても手がけたいのは、駅とホテル、そして本屋の設計です。10年前くらいから納得できる設計の駅・ホテル・本屋が日本にはなかなかないなあと思って考えはじめたのです。これらは民間が運営管理していますが、公共性もありますよね。駅は言うまでもありませんが、ホテルは社交の場としての役割があるし、本屋はある種の図書館とも言える。公園の運営管理を民間が行なうなど、もともと公的な施設に民間の要素が

持ちこまれることはありますが、その逆もあつていい。民間の場所が持つ公的な機能や要素を活かす、逆のベクトルを生み出すことも可能かもしれない。具体的な建築の設計を通じて、新しい社会システムや仕組みを提案したいんです。ここまでできるのが建築の魅力だし、建築と社会との関わり方を考えることは建築家としての義務だと思います。

—最後にSFCの学生にメッセージをお願いします。

学生は、まずは徹頭徹尾知識の吸収に努めるべきです。エジソンの言葉をもじつて「99パーセントの知識に1パーセントのひらめき」が必要だと思います。多様な分野の知識が得していく過程で、全く違った分野の知識が交錯していることに気づく喜びを味わってほしい。それがひらめきの種だと思います。さらにそのひらめきをブレイクスルーさせるための人と議論する。それから、アイディアコンペや懸賞論文に応募することで、ひらめきを具体的なかたちにしていく。それで賞を取つたらまたモチベーションが上がりりますしね。とにかく、さまざまなものに興味を持ち、貪欲に知識を得てください。

(注1)

伊藤滋 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科客員教授、工学博士。アカデミー・ヒルズ会長、アーケード都市塾名譽塾長、早稲田大学特命教授も務める。

専門は都市防災論、国土計画、都市計画。

(注2)

池田靖史 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科助教授。専門は建築、都市設計。



HCD2005
SFC三田会からのお知らせ

キャンパスへ帰ろう

第14回



六本木に集った！ HCD2005

2005年で4回目を迎えたホームカミングデイ。HCD2005はOpen Research Forum 2005と同じ会場で開催され、初めてSFCの外にその場を移した。果たして今回はどんな再会や出会いがあったのであろうか？熱気に包まれた会場の様子を取材した。

――今のSFCに戻る

SFCの卒業生、在学生、教職員が年に一度集い、互いに交流を深める場として2002年より開かれてきた、ホームカミングデイ（以下、HCD）。第4回目となる今回は、Open Research Forum 2005（以下、ORF）と同じ会場の六本木アカデミーヒルズ40で行なわれた。ORFでは、教員や学生が現在SFCで取り組んでいる研究内容を発表する。都内にいる多くの卒業生にとってアクセスしやすかったことや、ORFと同じ会場であることが影響したのか、今回のHCDには約700人もの出席者があった。これまでのHCDはSFCのキャンパスにて開催され、かつて毎日のように通ったキャンパス自体に「懐かしさ」を感じてもらおうという趣旨のものだった。しかし今回は「今のSFCに戻る」というコンセプトのもと、キャンパス自体の「懐かしさ」に回帰するのではなく、今も健在であるSFCのスピリットに触れてもらいたいという思いが開催場所の選択に込められていた。

実際 ORF2005では、現役のSFC生たちが来場者に少しでも自分たちの研究を知つてもらおうと、溢れんばかりのバイタリティを見せていました。来場していた卒業生は「自分が研究に取り組んでいた時よりも内容がさらに進化している。時代の変化というものを感じることができた」との感想を残した。「ORFでの発表の仕方も工夫されて、見る人を意識したかたちに変わっている。今も動き続けているSFCを見ることができた」という、かつての学生時代と今のSFCの違いに驚く声も聞けた。また、別の卒業生いわく、「前回は秋祭と共に催だつた

ので現役の学生との出会い、という発想が面白いと感じていた。だから今回は学生との生の触れ合いが少なくなってしまふのかと懸念していたのだが、そんなことはなかつた。今、学生がこういうことを学び、取り組んでいるんだということを知ることができ、自分の仕事と今日のORFを通して得たことをどのように結びつけるかを考えることができた」。また開催の場所については「会場が都内に参加しやすかつた」「また参加したい」という意見が多かつたが、その反面「SFCに帰ることができなくて残念」とキャンパス自体を懐かしむ声も少なからず聞かれた。

――旧友や師との再会

時は夕方の5時となり、アカデミーヒルズ40から夜景が見え出した頃、会場のカフェに続々と卒業生が集い始めた。



イネスオーネストラがHCDのために録音した演奏がBGMとして流され、会場を彩った。



今回のHCD2005では、秋祭と同様開催された前回のHCDとは異なり、卒業生と教員・学生が交流をするといった特別なイベントはなかった。昨年のようになつて、秋祭と同様出店されている出し物を見たりするのも楽しいかもしれない。しかし、それだけでは、今の学生が何を考え、何をしているのか、卒業生が今社会で何をしているか、今、お世話になつた先生がどのようなことをやつているのか、ということをお互いに認識しづらい。そのため、今回の中CDは何かのイベントを企画するというよりも、卒業生、在学生、教職員が会話を提供することで、発展的な交流を生みだそうとした。「今回のHCDのようにただみんなが集まるという会があつてもいいんじゃないか。何か特別な企画がなくて、そこに人さえいればみんな集まつてくる」。旧友と談笑していた一人の卒業生は、そのように語ってくれた。

そしていよいよ、HCD2005のパーティが始まつた。最初に、熊坂賢次環境情報学部教授による開会の言葉と、橋本岳SFC三田会代表幹事の挨拶があつた。続いてSIV Business Idea Contestの表彰式が行なわれ、いじりも大学発のベンチャーアンキュレーションの成功モデルを作ろうと挑む、SFCの今を感じさせられた。そして、かつてSFCの創設に尽力した高橋潤一郎環境情報学部名誉教授の乾杯の音頭とともに、会場はさらに熱氣を増す。その際盛り上がりあまりか、静かにするようにと熊坂先生より叱りを受ける一幕もみられた。SF Cのオーケストラサークル、アインクラ

イネスオーネストラがHCDのために録音した演奏がBGMとして流され、会場を彩つた。今回のHCD2005では、秋祭と同様開催された前回のHCDとは異なり、卒業生と教員・学生が交流をするといった特別なイベントはなかった。昨年のようになつて、秋祭と同様出店されている出し物を見たりするのも楽しいかもしれない。しかし、それだけでは、今の学生が何を考え、何をしているのか、卒業生が今社会で何をしているか、今、お世話になつた先生がどのようなことをやつしているのか、ということをお互いに認識しづらい。そのため、今回の中CDは何かのイベントを企画するというよりも、卒業生、在学生、教職員が会話を提供することで、発展的な交流を生みだそうとした。「今回のHCDのようにただみんなが集まるという会があつてもいいんじゃないか。何か特別な企画がなくて、そこに人さえいればみんな集まつてくる」。旧友と談笑していた一人の卒業生は、そのように語ってくれた。

6時30分ごろ、会場は未だ賑わいがおさまらない様子であつたが、パーティの終幕を迎えた。人々はHCD実行委員の誘導により次第に会場から去り、研究会、アドグル、サークルごとの同窓会を行なうために、六本木の街へと散つていった。それぞれのグループのなかで、久しぶりに会つた恩師、友人との会話に興じたことであろう。

—今後の課題

HCDの実行委員は卒業生、在学生、教職員から構成されている。それゆえ、

SFC三田会代表の橋本さんは言う。「こんなに大勢の人々が来てくれたのだから、今回のHCDは成功した、と言えるのではないでしょうか。次回もぜひ多くの人に来てほしいですね。それと同時に大勢の人に手伝っていただき、一緒にHCDを作り上げていきたいです！」



SFC三田会会員の皆様へ

—メールマガジンへの寄稿募集のお知らせ—

SFC三田会では、メールマガジンに寄稿して頂ける卒業生を広く募集しております。現在のお仕事について、また転職や起業、留学のエピソード、さらに育児体験などを自由に語って頂きたいと思います。匿名での掲載もOKです。お気軽にmaga@sfc.ne.jp宛までご連絡下さい。

お問い合わせ先：

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス SFC三田会
〒252-8520
神奈川県藤沢市遠藤5322
TEL/FAX:0466-48-0683
info@sfc.ne.jp

—SFC三田会オンラインサービスご登録のご案内—

SFC三田会では、一昨年より新しいオンラインサービスを開始しています。

このオンラインサービスは、SFC三田会からのお知らせ・ご案内をお届けするための連絡先の更新が行なえるほか、継続的な連絡手段を得るための生涯有効な転送メールアドレス(3ヵ所まで転送設定可能、your_ID@入学年.sfc.keio.jp)の付与、IDを用いたご自身の近況報告ページ(SFC-Ring)等、オンライン上での情報交換サービスのご利用が可能です。

サービスの説明、及びご登録については、三田会ウェブサイトにアクセスしてください。

<http://www.sfc.ne.jp/>

KEIO SFC REVIEW No.28

湘南藤沢学会 2006.03.01

ISSN 1343-3318 定価 300円（消費税込）